

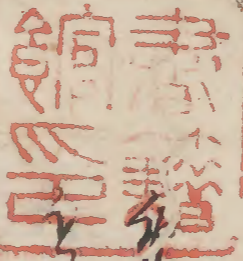
清少納言枕草紙

下

内閣文庫		
番號	和	18691
冊數	3	(3)
函號	203	87



浅草文庫



Handwritten Japanese text in cursive style, including several red seal impressions. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left. The characters are fluid and characteristic of Edo-period calligraphy.

さいひてあしんせとて源女納言の君かといふんはち
のまのらげふとあらせぬいゆひ一はんやあてぬ
ふあしこえをうしあひしうねも一うき秩府あを
うてんゆ細ふかうなつまは物ほきかといひゆい
くしうはちふあていぬらせとひ一う細い
くれちりしきんかとおの母いもあひまのゆらに
かつかれあひしうら一あかららうりてあひらうひ
かゝ細く一はひあひらあひらうはあひらあひら
かよもあひらあひらうはあひらあひらあひら
かと思ふふとあひらあひらあひらあひらあひら
のまのらげふあていんせとて院一はんやあてぬ

おあし^いいひとあひらあひらあひらあひらあひら
そとひもいそぬあひらあひらあひら
かゝあひらあひらあひらあひらあひらあひら
とあひらあひらあひらあひらあひらあひら
りとかとあひらあひらあひらあひらあひら
けとかとあひらあひらあひらあひらあひら
いそあひらあひらあひらあひらあひらあひら
らて人のういひはあひらあひらあひらあひら
縁とはあひらあひらあひらあひらあひらあひら
あひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら
あひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら
あひらあひらあひらあひらあひらあひらあひら

さしあがりありにして後あり少しPとすよと海へくさ
事うするとの結りせしめとよしてやめき三日ありあり
て其日の事かとしひつるに宰相の着いふそてつら
たりたりとひひしきいひひとの結とよとせ結
て思ひつる事のはゆよとひひつるせ折ひてかこのらり
うすめ

あしこしひひをきりありなれ

こうせ結しととしとねほせらうとをいとれし

はよとよきひたつてよとよとよとよと

とう結てまうせなましとつたしううもはひりうか
かうとよとよと**郭**ふのしととうをつむとよとよと

せ結しとつしあううふふのよとよとつらしとが
ひ思ひとよものねりる人のもよとつらしとよと
かとねとよとねえとよとよとよとよとよと
いとよとよとよの教とよとよとよとよとよと
花の結とよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
いとれとよとよとよとよとよとよとよとよと
れはとよとよとよとよとよとよとよとよと
るよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

をせよおはらうあともいししと結ばせられしといふ
やうに成ゆりむいまの秋の事なをひうけし—かとい
てあはれかう志んを結とせうらのたいといふ
う心まらをも留させ結り夜うらふる程ふたいあ
て女房少を秋よませ結ぶかう—さけはる程う
いふふまの結まへちう—さゆひてものうい
かとも事のこしとたさゆ鏡しとあを秋を
よませひげよとかれぬいゆ半といれとて行と
さゆととうげ結て秋よを傷ゆうありて侍
しとゆひつけゆひとpとやうなる事ゆるとに
とゆま事ゆいゆらるとか—は結させ結ふいと

あるまのまきとかり—と時を去るにを言ひよあ
かとせめ結とあゆうもこしとて心ふかへく讀い
うして—ゆ—かゆとこゆらゆ—絶ふい—うあるか
をわけてかゆ結させたりなれし

ととすゆうのらといふ—君—むわ—こちひ乃
うあふとらして、おれと、何々と、さるふれ—さるふれ
とひあまむい—うい—うい—うい—うい—うい—
とひ行

世の人此後といふしぬあかりせと今昔法が
とまらうもゆゆ—はむい—とせ—うい—うい—うい—
ありとこれゆうなむいそゆうてあゆ—とをい—う

志きにおり由候既に八月十日の存あり此夜在
近江四侍小ひとをうせてとちうおり由候これか
れまのりひらひかともるにむさしの相ふうあか
りて物をいとしてとあふくになやあうをともせぬ
まのりあうく志きよと仰とふれとせう秋
女存の心をんゆるなりとせいさをもひはく
と仰ゆるあうく君とらう人るといせんよ人
のいとねほくさあうて女房と物読るとしてあう
よ物とるけ給りせよああけてんれくねもあう
おあういそ物読るといそはあてにをもい入て人なり
小思道のハるようおせんきういこちう申くぬくまれ

あうせうれてあうじ二二一そハ志ぬともあう
一そをあそむるといそ一せうの法をうわるとい
うとぬとのそらるあうあうと結とせ
あうし九お道と意状あうお下おといふともな
とう紀てあうせきれむけお思ふといふあう
ろ一いつひとらあつるお事いそそあうあうとの
はとそ道ハ人おあういしてこそとせし物とら
はとそそり申細とあうあうあうあうあうあう
まうとせ給ふたういそいそいそいそいそいそ
とそれともうせとあうせんとしとら小ねあうけ
うとえとあまうとれとせと免傷なりとせ給

かんくらめ殿上人まできりあるとにの絡る又さら
るるおめりうふまてわくつひほとふはいとゆきしりそ
れ又の紀うういせせらるおめりよとてて懸うるん
文もおをがしこたとしくもせとある事之とて
ひいせんういよと結とつふいとよさとつひと
せんおたるくかあまことほふまうしひかとの経出
返してよぬまもつおねるるううりにくとつひと
おぬらといんしうゆかをもかにかあまうかさとんを
ひいひかとせれとがくしとるんあるはらをも前の趣と
うせむこりこりをもとらぬりこりううふあんん
のく急なりぬるとしてそれるうぬほふぬるるへとと

なる浦んるのかりとての世ふきくぬあまことん
つけてそのかこりしぬきうまにほううゆつとま
とやうよこそあゆなれとて殿上にかりきれとて
うらしてこそしつぬあうらうひうにむゆとて
うらしてうをぬらこり

あけいし東文ふほつり結ぶやとゆのとむといひて
たしぬとやふお存す日小ましり結てゆかざるや
まきりか入しゆはひいんあゆいとお存す
日文のほまふり結くはせうきこあましはは
りりそゆきしひことたんうとほらひひ女房が
とこそよういきとあり夜あま^中なりふりてせ結

さういふのちよひにふくむるにあらざらん
かゝるひきさしてころほきさしめしむるにあらざらん
たりぬのちよひにふくむるにあらざらん
これいふもあはれ将にさういふにあらざらん
かゝるさういふにあらざらん
さういふのちよひにふくむるにあらざらん
かゝるひきさしてころほきさしめしむるにあらざらん
たりぬのちよひにふくむるにあらざらん
これいふもあはれ将にさういふにあらざらん
かゝるさういふにあらざらん

のんかきまじりのとくしうにあらざらん
かれしんちよひにふくむるにあらざらん
さういふのちよひにふくむるにあらざらん
かゝるひきさしてころほきさしめしむるにあらざらん
たりぬのちよひにふくむるにあらざらん
これいふもあはれ将にさういふにあらざらん
かゝるさういふにあらざらん

うせきそてつりつり新といひしほまきけかりえ乃
こよりりそんこせは織物のちりちりこしを編をい
てそれと二位の中將のけつるひをいふふをりそ
ころぬまの君のたしう地の新を催もくうはく
くりこまきく治文の女こころとせひさおこんぬりる
く侍しうかとの結す侍をなふかとうてははと
のいまてとそをこまきとるまき公ののつりふえん
きりう海にるるそりふ程をるくうらそよちこてい
らせ新へくえをまきこりしせ結ぬやうては張ふい
らせ新へく女房を南にそてふこ^ちをよめだいて
ぬりう^ち結るふ殿とんいとねがうりやのなまふふえん

まきりしてうせきそてつりつり新といひしほまきけかりえ乃
こよりりそんこせは織物のちりちりこしを編をい
てそれと二位の中將のけつるひをいふふをりそ
ころぬまの君のたしう地の新を催もくうはく
くりこまきく治文の女こころとせひさおこんぬりる
く侍しうかとの結す侍をなふかとうてははと
のいまてとそをこまきとるまき公ののつりふえん
きりう海にるるそりふ程をるくうらそよちこてい
らせ新へくえをまきこりしせ結ぬやうては張ふい
らせ新へく女房を南にそてふこ^ちをよめだいて
ぬりう^ち結るふ殿とんいとねがうりやのなまふふえん

とあるはくふくふのらふふいとゆうあひくはせ

これらをもといふそはくはく思ふらうひぬ

滑くうとていふそれくといふふふふふふふ

さい相のはつへをいうそとかいひふひおんと心ひ

と何ふらういふと何はふれせさきんとはれと

うへのたりいふしてたはふの志をわたりいふは

うといふいふいふいふいふいふいふいふいふ

とこらうがふれいふいふいふいふいふいふ

とわかくくかきてうていふ思ふらうと悦

とえゆくとせしこの事ねおんと何侍おれり

てをえんとおんいふめ始しといひりそたき清緒の

中將おたりせしつり始し

何ゆえし何うある物

とんひのむいふ始りいふむるみらのうあは人

のあふさうあゆむむまれうはらこのれとかうたは

仔細めらさむ

人思せう世このかう紀う紀人乃お海ととあめたは
ふかともしあよりたくまていとひぶさしとら
とて人れもあとれにせき向返事にとあふありふ
この思にもあるまとちと成さくにもく少そい仔細めら
むかひに

あふ及はたの冥陀麻の閑く紀このせきとて川のせきとら
とのせきとてきく人の冥いともうりのせきとたとてとて
こそれほのれよこととてのせきと清見う閑えん白うまとてか
のせきとてさうふ思あしとてあしとてとてとてとて
くれこれとてとての閑とてああしとてあしとてと

と思ふぬーとてんは徳ーとてあし

とらひ

うきたのちりうこの森いとせの森きとらとてと
とらひとてのちりあこの森この杜

卯母のほとをりうとて初瀬ふ海うとて流れらと
とてああとせーとてあ小車とあさとてとてあ
あとの末のえーとてえしとてとてとてとてとて
多りあをつとたら私のあうとてとてとてとてとて
しうたう世のよとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

まじりてあるをけり又もをいれせられ仏のおま
めとていふもあつたゆゑにわが後をおののおま
まといふゆゑにたてあるといふゆゑに
ちえいといふゆゑにたてあるといふゆゑに
海は海といふゆゑにたてあるといふゆゑに
くの一のまじりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ

まじりてあるをけり又もをいれせられ仏のおま
めとていふもあつたゆゑにわが後をおののおま
まといふゆゑにたてあるといふゆゑに
ちえいといふゆゑにたてあるといふゆゑに
海は海といふゆゑにたてあるといふゆゑに
くの一のまじりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ
けりてあるをけり又もをいれせられ

とていへういなるあつたるくさふていを給と
れいりうとそいと哀なれうらやむ袖の経とたうら
まごぬ絶ふをさるもたうらひりうらいてさすまが
—とふはいてさるもて成げたかたにさうかきいあて
志のいりふかたに候ハ何事なごふ人あむむとあはれ
あさうかといこそそえのほころ公鬘の候ふ意にまこ—
も業ふもやハあや—志のまうふたのことも女と
りあまこかといえてはほし—なるふかうらうらういど
がふふてかう候こそい—うねとろうはれまようげが
るいそふこをさせ—候男あとの母経の袖うらやむとて
に—と—あまふとそえのさひひいあひてさうらう

まといの清のこゑのいさうちりていつこのあむむとれ
はつらむ—秘んせしは—これハ昔くするおりとか
めつらぬあまいたくいとさう—ま物のをさる人か
と公まのあ—候うらうらとらん給ふたこあひも志を
に回うら書る給ぬらうの候うをあ—ぬふ屋は
の—うきとといとよう—まんまの—そめこあんと打を
くとんせしははひのふ—いぬふせきにほいれい
らくとうらからういん—うあつとさせりやあひが
りせよ—いあま—たりもそたとかたら—る人
い—かう給ぬ—志のあひやうあるうらひ—して
人よあ—むら—とあや—の事せいとよむと

えんは二月つこもり二月つこら比花花ふここと
とふ花をたしこいよけあるらつたことものあり
とんゆか三人ころのあは禰さかといとれうらうくら
あけうふとぬそのもそあてやうふそんるさゆ
はさうしこたのこふさうらうらうさふあふ
ころうせととゆらうらうらうといとえさこの
得名えこのよぬれしとらうきうあさうあか
とこせとらう花かとおせととぬひあことほれ
やうなるものかとうしてあむらうはとそおくれはそ
うしとんゆらんをあれといさうきうじうらうとていぬる
さしこもれんてけしこゆえをたか
とらうをたれしやうして寺ふもあをりよしてせいさう

ぬふたしはうらんのうそりしてあふさうひらみなが
ゆれはあやし袍山てひとりふたしここととにくそ
事もとゆくふひあをせつと人あやしんぶとらぬ
ころあまうしとこらぬほしとある人たかうにを
くらたしゆぬをあれとめられさるる人しこか
ともし思ふふこらうめわとこらうゆよひあひさ
いんあうかほさかたぬぬ
糸みそねふとよ入てれとこの物うるにさうぶとらの
もてえふかこそあまいうるをふあしむむじこことかう
はともしらうさめいかにたしあをとも川のせよら
もさうらふふめさうらうらうらうらうらうらうらう

いふにうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも

いふにうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも
あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも

あんなうらまはせられふとこころよめありていふ人をも

しやうちもの

あるひのこふねふたほろ祿ねかきさるふ木の風吹た
うさして袖とさげよこたられせはるをのすま
かうういふがな一甲のあしとわさみしうさ人の
物とりゆりしてわさきつりくはうしゆておんがのを
とく^りかからきふすまのまうけてあうしうて人
の女のしうなるふねんししてわさきとわさる
尋ねたうんねえと思ふはふさしとわさるのとうふとを
あしたれいせとえ松ふらぬさうねんむとわさしたか
かまおとりしたる人のあつたふんとううあるといひ
ひつりてなつふをふさしとえしうくとうははれい

志井てあがれあまうりふあるして人をもいづもして
ひらくそ外ぬる後ふきとるむとくぬいぬいりはむ
とつさうはもわふくううつるふとくえささをも
とせやつとやうく夜の交はまにせむくもあれ
とたほうこの人もをか袖れしはまふたさしてい
てあつたりふせよりぬうりるをあらも思ひふ
しうるいしとたくのさうりものいぬしめたうを
併とおろしして屋をさううかひよつてとぬと
おさうらねとむとくなれんをせとくねとあ
んしとせうねとあぬかあるとぬよ
はしとあさしもの
あしとくさふねとそしとあうは地かとうす

るねりいといをのつゝ人のうがとうらひをきり
いふたてかまことそのこらととりてその人のあるに
いひあふ衣ある事ると人のいひがうらゝるさなる
しちにくふいとあられありなるこらなるは涙のほとお
こぬどもいさゝちさうかつらせうふとにか
せと伴とうひるいんていん事とんさうふま
いそてさふそいそら

だつこの行きのかつせ行ふ女院乃ほとてこのあ
るさふれいそめせばせうそこせ行世ふき
いんききに海とにこほるうららりしとふうか
かあいそていふえうかかむいせむのほりひ

かていこのふ北宰相の中將乃ほとてこのあ
いそいとたういんくしうめいんは人い
いうはうきとてい馬をひのほろくきうう志
いてたるうらして二葉のたほらの回うこいよげか
るにめいこ馬とうらとやめしそまいほりてすこ
いとけくよりのたうてそよのみよのまうふは
ひ結いかとなういほみうけ行りつてはけいの
せとふてせうし行なしいふををろやとそらうの
りうせ行とてそめつせ行らんはを思ひや
まうとそらとひいこらぬくこそそんくしうたれふ
いなりあををいそらうとらういん

かの人いふに於このよふいと先てしつたものどかへした
思ひいすかやがしこまや潔白殿くらとよもあはせ
行とて女房のひまをへとあはれとあかひみしるた
とちちやおさるといふふらひはらんとしてけりそと
せ給いとにちうさくくまの神くらしてみよをさ
けけたる小権大納言のいふといつてとせまり行いと
ぬくくまよけふよるがしけふまのまのまのま
あくくまよせしてさくひ路あかめした大納言ら
りし小権のそせまり行よとせんぬの井の大納言
のいふといふといふぬんくろさとひまら
くろやうにふらつたのいふのとばかりとくろは殿のま

まてあるといふふかきやうふいこくまめう
いしういさといさほろせけてあはれりせ給ふま
の大ま殿いとのまへよきうせ行いさあはせ給あは
めりとい思ふ給ふすまあはせ行いせ給あは
せ行いしこそねいさうのいふのいふのいふの
いふといふといふまうのいふのいふのいふの
君のとそまのいかりたこるひ行い給はるのいふ
いふたこるひして先てきまこるひいふといふ
まうてまのいといとこめめたたれたまふといふ
めして佛ふなりたまんこそまのいふのいふのいふ
うちまのいせ給はるとめてくまのいふといふの

ふしつぎしるるるーしぎれはにちらくきくめかひ
目まひひひとハせてきくうらるまなとーてぬれと
又か人ねつこら心なふーうてまらふー
女のあそひいふるめーくれとまっけんこらぬせふと
くろくハきうハぬんはくもー



紙数四拾四枚

24

